

世界大学ランキング、台湾大学が70位に 昨年から6位上昇＝QS社発表

(台北16日中央社)英国の大学評価機関、クアクアレリ・シモンズ社(QS)が15日に発表した最新の世界大学ランキングで、台湾大学(台北市)が台湾の大学としてはトップの70位に入ったことが分かった。昨年よりも順位を6つ上げた。

台湾の大学で100位内に入ったのは台湾大のみ。400位以内は9校ランクインした上位から順に清華大155位、交通大182位、成功大224位、台湾科技大260位、陽明大338位、台湾師範大376位、中山大379位、中央大397位となっている。

同ランキングは世界の大学を対象に、学術的評価、企業による評価、教員1人あたりの学生数、論文引用率、外国人教員の割合、留学生の割合の6つの基準を総合して決定された。※ちなみに、東大は39位(昨年31位)、京大は38位(昨年36位)。

中央社フォーカス台湾 2015年9月16日



年俵500万円(≒2000万円)!大学でビッグデータ人材育成

ビッグデータの時代が来た今、台湾にはビッグデータ人材に対する求人が10,000件以上にも及び、初任給は月給5万円(約20万円、台湾の初任給では最高レベル)から、年俵500万円(約2000万円)を提供するというテクノロジー企業まで現れた。このトレンドに注目し、多くの大学では続々とビッグデータ関連の課程や学科を新設し、専門人材を育成しようとしている。中でも、中原大学では初めて1年で学位を取得出来るという学士後学位課程(学士号取得後の専門学位)を設立し、早ければ半年間で就職が可能となる。

インターネットが台頭する中、過去2年間で生まれたデータは人類の歴史の約9割を占める。ビッグデータには多くの商機が秘められているが、データを分析して関連性を見つけ出し、企業の決断を助ける人材が必要だ。世界中でこのような人材の争奪戦が繰り広げられ、「21世紀で最もセクシーな職業」との呼び名もある。国際機関の予測では、全世界で今年関連職の求人は440万にも上り、更に台湾では人気職ベスト10の一種である。

中原大学では、初めて商業ビッグデータ管理学士後学位課程を創設し、国内初のビッグデータ専門人材をうたい、48単位を修了すれば学位を取得出来る。初年度は40名の募集で、来年2月に開講予定となる。学位取得済みの学生限定で、入学基準は低く、ある程度の論理的思考と数学能力があれば良い。最短半年で職に就け、1年間で学位を取得出来る。同大学は昨日も財政部財政情報センターと覚書を交わし、将来は税務等の実際の財政データを分析し、意思決定の質を高められるよう、この課程を通して協力していく予定だ。

東呉大学も今年初めてビッグデータ管理学部を設立し、前財政部部長の許嘉棟氏を教授に迎えると共に、民間企業の中台專利雲公司から学生にデータバンク及びインターンの機会を提供する。2016年度では学士課程90名、社会人修士課程に20名募集予定だが、修士課程の応募は106人に上り、倍率5倍という記録で学内最多の応募人数となった。しかも、応募者の多くは、産業界や経済界の理事長やゼネラルマネージャー等の企業幹部である。

台北医学大学でも今年ビッグデータセンターを創設し、研究センター主任の謝邦昌氏によると、現在国内には医療を主としたビッグデータの研究はされておらず、他の医学部も後に続くことが予測されるという。研究センターは医療を中心に、健康保険や病院データバンクを統合し、価値ある医療データを提供し、異なる病状のニーズに対応出来るようにとの狙いがある。

台北医学大学は現時点でビッグデータを活用して乳がん、大腸がん、直腸がんなどのがんの分析、及び3Dプリンターでカスタマイズされた歯型模型等を作るという研究が行われている。但し、ビッグデータの応用にはプライバシー侵害等の不安があることから、同時に法律研究室と合わせて検証している。

聯合報 2015年10月28日

台湾への留学生 6割成長、社会科学や商業管理が人気

留学生数ベスト3はマレーシア、ベトナム、インドネシア

少子化の影響もあり、台湾の大学では近年留学生の募集を強化している。教育部の統計によると、台湾で学位取得を目標とする留学生はこの3年間で6割成長したという。その中で、外国人留学生、華僑生(香港・マカオを含む)或いは中国大陸からの留学生の身分で入学した生徒に最も人気のある学科は商業やマネジメント分野だ。

留学生には学部生、交換留学生、訪問学生が含まれるが、学部生は滞在時間が長く、且つ正式な学位取得を目的とすることから、政府が留学生の募集効果を評価する最も重要な指標となっている。近年、留学生総数は中国からの短期交換留学生数が増えたことにより増加したが、学部生の人数も2011年の2万5107人から2014年には4万78人へと継続して成長していると教育部は指摘する。

統計によると、留学生の中でも、外国人留学生は7年間で167%成長し、人数が多い出身国はマレーシア、ベトナム、インドネシアだ。華僑生は7年間で85%近く成長し、マレーシア、香港及びマカオの3カ国だけで83%を占める。中国大陸からの生徒は、募集開始から3年間で534%成長した。学科ごとの分析では、2014年は社会科学、商業及び法学分野が最も多く全体の36.3%を占め、工学、製造及び建築分野が20.6%、人文及び芸術分野が16.3%を占める。

教育部国際・兩岸教育司によると、どの身分の留学生にも商業やマネジメント学科は最も人気で、中国人留学生は中でも特にファイナンスに興味があると言う。外国人及び中国人留学生が次に好む分野は工学、人文で、華僑生は人文の次に工学が人気だ。

華僑生の中でも、香港は3年間で134%成長し、2011年の2481人から2014年には5814人になったが、それに比べるとマカオはあまり増減がなかった。

マカオ出身で台湾師範大学香港マカオ生会の会長羅月欣は、マカオは香港と比べても経済や政治が安定しているからだと分析する。世新大学ジャーナリズム学科を卒業したばかりの香港生関学琛は、香港には大学が少なく、高校生は狭き門に嘆き、将来の就職を不安視している。近年香港が中高各3年間という新制度になり、台湾の大学に入学しやすくなったことが、香港からの華僑生の大幅増加に繋がったと話す。

国際兩岸教育司の劉素妙科長は、台湾の学費は香港・マカオの4分の1なので、留学生数が安定する要因の一つだと指摘する。関学琛は、学歴と学費のメリットの他、台湾はより生活しやすく、ストレスも少ないので、香港生にとってはメリットが多いのだと話す。

外国人留学生数ベスト5の大学院は、台湾科技大学が修士・博士両方でトップである。学士と修士課程では、留学生は主に企業管理、金融、及び国際貿易等の学科を選んでいて、博士課程では理工分野が多い。台湾科技大学の廖慶栄学長は、理工学博士は帰国後に教職に就くことが、そして、商業マネジメント修士は就職に有利だと分析している。



聯合報 2015年11月11日